

特集 Learning journey

ラ ニ グ ジ ャ ニ ー

「ラーニング・ジャーニー」の意図するところ

子どもの主体的な遊び・学びによる心身の発達
今の子どもたちを第1世代ととらえた育つ環境の創出

◆「日々の遊びを通しての子どもの学び」の創出

子ども一人一人の豊かな人間性の育成に必要な様々な保育環境が存在していること。
また、それらの環境を通してさまざまな学びが期待できること。

◆「日々の遊びを通しての子どもの学び」を保障していく上で 我々が何よりも大切にしたいこと

「一人一人の子どもがとことん遊びこめる環境作り」であり、そうした「子どもがとことん遊ぶことを通して学ぶ」プロセスを保障するためにも、まず保育者が「子どもがとことん遊びこめる環境づくり」を適切・適当に展開できるための質の高い『遊びと環境をデザインしていく力』を身につけていくことが求められる。

◆「とことん遊びこむ」

- 子ども自身が、「目標（やりたいこと）」を持って遊ぶ
→「興味」・「関心」・「好き」などから出発した遊び
- 子ども自身が、自らの「行動力」と「創造性」で、遊びを継続・発展させていく
→「またやりたい」・「わくわく感」・「試行錯誤」・「繰り返し」
- 子ども自身が、「飽きるまで」・「満足できるまで」・「納得できるまで」遊ぶ
→「没頭・熱中」・「真剣・集中」・「満足感」・「充実感」・「達成感」

◆「遊びや環境をデザインする」ためのキーポイント

- ①保育者自身が子どもと共に遊びや活動に取り組む（子どもの気持ちや意識を共有しながら）
 - 正確な一人一人の子どもの理解（保育記録（データ）を書くことも含）
 - 子どもの憧れの存在（遊びのお手本）としての存在
- ②日々の時間的流れの中で、子どもの興味・関心・願いなどの変化に伴い、継続的・発展的に遊びや環境を変化させていく（長期的視野を持って見通しを持つ・振り返る意味）
 - 遊びや環境が、保育者の創造性や工夫を活かしながら、昨日から今日そして今日から明日への流れの中で、見直され、再構成し続けられる
 - 保育者のさりげない（見えない）援助によって、子どもが新しく気づいたり・考えたり・やりたいという気持ちを持てるきっかけを作る
 - 保育者の意図によって教育的な価値のある環境（＝学び）を構成していく
- ③「一人一人の遊び」と「みんなで取り組む遊び」との相互作用の中で、継続的・発展的に遊びを展開していく
 - 「一人一人の遊び」がいかに「みんなの遊び」として発展していくか、また「みんなの遊び」の経験がいかに「一人一人の遊び」に影響を与え、継続・発展していくかといった相互関係を、保育者の適切な援助の下、デザインしていく
- ④「子どもの遊び」や「遊びや環境をデザインする」ワークシートの作成と活用
 - 遊びの広がりや発展、遊び同士の相互関係を把握する
 - 子どもに必要な遊びや環境を適切に提供する
 - 次につながる保育記録（データ）を書くこと
 - 子どもが「楽しかった」などと感じることができる「ゆとり（余韻）」があるか確認する
 - 遊びの中で経験したことを子ども達同士発表する場（情報交換）がある
→子ども同士の新たな認識・再発見・人間関係（信頼関係）の深まりへ



B 子どもの名称 :Players＝遊び込む人

C 子どもの活動 :

1) 「Challenge Learning style」

＝日常生活の中で出会う夢や願いの実現・達成に「挑戦」していく時の流れ

2) 「Fantasy Learning style」

＝日常生活の中で想像される夢や願いの実現・達成を「楽しんで」いく時の流れ

D 保育者の名称 :Learning Partner

E 保育者の役割 :子どもと一緒に活動し、より発展するように援助し、子どもの「夢」や「願い」を叶える人。子どもが「夢」や「願い」を叶えられるように、協力・サポートする人。

⇒「具体的な役割や姿」

①よき理解者

②よき共同作業者・共感者

③よき憧れのモデル

④よき援助者

⑤よき心のよりどころ

⑥よき情報（知識）提供者

